

米CPI、市場予想を下回る

ポイント① 米CPI、市場予想を下回る

10日発表の7月の米CPIは、エネルギーのマイナス寄与の縮小などから前年同月比3.2%の上昇となり、13か月ぶりに伸びが加速した一方、同3.3%の市場予想は下回りました。項目別では、前年同月比でエネルギーはマイナス寄与が続き、食品、財のプラス寄与は縮小しました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIは同4.7%の上昇と、6月の4.8%を下回る結果となりました。

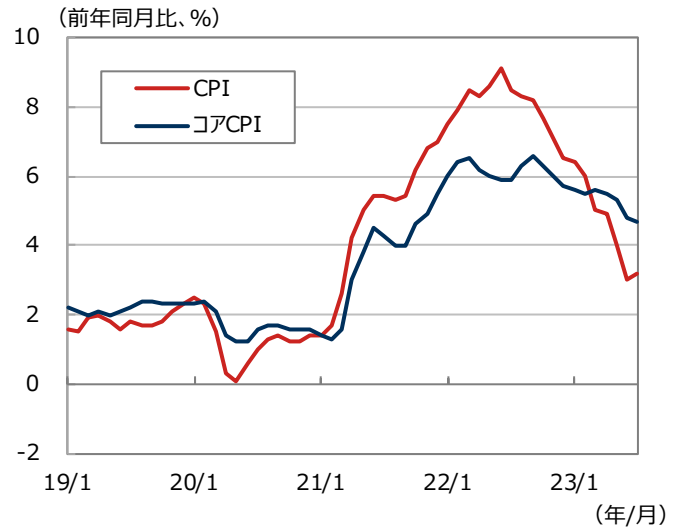
ポイント② サービス価格の上昇は継続

サービス価格のインフレ圧力には、引き続き注視が必要な状況です。食品、エネルギーを除くサービス価格は前月比0.4%の上昇と、6月の同0.3%を上回る上昇となりました。高い賃金上昇率と住居費の高止まりが要因として挙げられます。総合CPIの約3割を占める住居費は、前月比0.4%の上昇となりましたが、高止まりする賃金や住居費の上昇に、いつ落ち着きが見られるかが注目されます。

ポイント③ 市場はインフレ高止まりを警戒

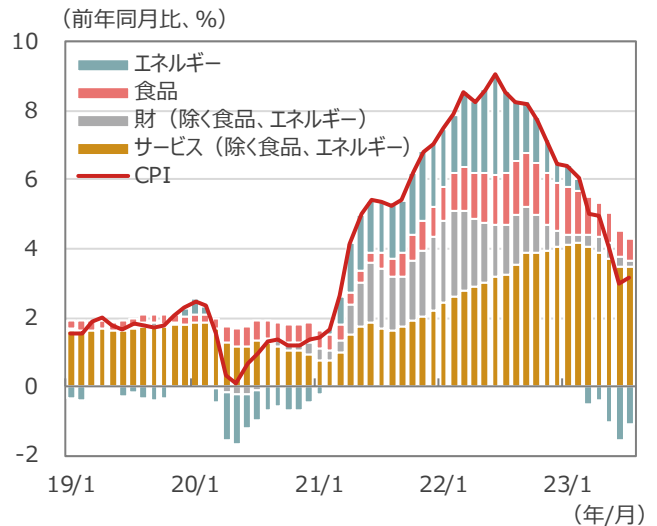
米CPIの発表を受けて、米10年国債利回り及び米ドル円相場は、発表直後こそ金利低下、円高米ドル安に振れましたが、その後はサービスインフレの高止まりなどを警戒し、結果的に米10年国債利回りは4.11%に上昇、為替は1米ドル=144円台後半と円安米ドル高となりました。また、翌11日に発表された7月の米PPI（生産者物価指数）が市場予想を上回ったことで、インフレへの警戒が再燃し、米10年国債利回りは4.15%に上昇、為替は1米ドル=145円程度への円安米ドル高となりました。

米CPI（消費者物価指数）の推移



期間：2019年1月～2023年7月、月次
 (注) コアCPIは食品、エネルギーを除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米CPIの項目別寄与度の推移



期間：2019年1月～2023年7月、月次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 8月15日 米小売売上高（7月）
イベント 8月16日 米鉱工業生産指数（7月）